教　師　ノ　―　ト

週課	第二年　第七課　第一週
単元	モーセ・2
テーマ	必要を満たしてくださる神さま
タイトル	マナ　ー天から降るパンー
テキスト	出エジプト 16 章
参照箇所	出エジプト17：1-7

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
詩篇107：9

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
小下 3 巻 1 題 4 課、幼 2 巻 1 題 5 課

❑導入

例 1：みなさんは、神さまがどんな方法で、イスラエルの民をエジプトから脱出させてくださったかおぼえていますね？（海を裂いて道をつくるという大きな奇跡のわざによって）　今日は約束の地カナンへの旅がはじまって、1ヶ月経ったころのお話です。人々は感謝と喜びでいっぱいの、楽しい旅をしていたでしょうか？

例 2：みなさんも、大勢で遠足に行ったことがありますね？遠足のとき、持って行くものは何ですか？（お弁当・おやつ・水筒など）。イスラエルの民は、約60万人で、およそ40年間旅をします。みんな40年分のお弁当をもっていたのでしょうか？それとも荒野には、レストランやコンビニがあったのでしょうか？

❑ポイント1　神さまは、イスラエルの民のつぶやきをきいてくださいました（1－12節）

イスラエルの人々は、海を裂く道を渡った後は、大喜びでした。すばらしい奇跡をみて、神さまをほめたたえ、エジプトの苦しい生活から解放されたことを感謝していました。そして、乳と蜜の流れるカナンの地にいけることをとても喜んでいたでしょう。雲の柱の導きを信頼して、約束の地を目指して歩きました。

しかし、荒野の旅は非常に厳しいものでした。ギラギラ照りつける太陽の下を歩き続け、しかもろくに食べ物もありません。エジプトを出て1ヶ月ほどたったころです。イスラエルの民は、とっても疲れてきました。そして、人々は、食べ物のことでつぶやき始めました。いつの間にか、感謝と信頼の気持ちを忘れてしまったのです。人々はモーセとアロンにイライラして不満を言いました。「エジプトにいれば、肉でもパンでもたっぷり食べられたのに、荒野では食べるものがひとつもないじゃないか！」「やい、モーセとアロン！俺たちをエジプトから連れ出して、飢え死にさせる気か！こんな苦しい旅をするくらいなら、エジプトで死んでいた方がましだったぞ！」

そのつぶやきを、神さまが聞いてくださいました。人々は、神さまがしてくださった親切やミラクルを忘れて不平不満を言ったのに、神さまは、なんと哀れみ深いことでしょう。彼らがお腹をすかせないように、「毎朝パンを天から降らせ、夕方には肉を与える」と言ってくださいました。

✎人々はモーセとアロンにつぶやきましたが、聞いてくださったのは神さまです。

❑ポイント2　神さまは、天からマナを降らせてくださいました（13－18）

でもどうやって、神さまはパンと肉を与えてくださるのでしょうか（イスラエルの民は60万人以上です）。なんと、夕方になると、宿営（イスラエルの民がテントを張って滞在している場所）を覆うほどに、うずらが飛んできました。彼らが、集まってきたうずらを捕まえて、その肉を食べることができました。人々は、このおいしいごちそうを、喜んで食べました。

朝になると、今度はテントのまわり一面に露がおりました。その露が乾くと、何か不思議なものが現れました。白い色で、形はウロコのような小さなものです。イスラエル人は「これは何だろう。」と言いました。彼らはそれが何か知りませんでした。するとモーセが「これは主があなたがたに食物として与えてく

ださったパンです。」と言いました。これがマナです。
　人々は、それを集めて食べることができました。そこで、モーセは神さまの命令をみんなに伝えました。「みなさん、それぞれ、自分の家族が食べる分だけ、マナを集めなさい。ひとり1オメル（2.3 リットル）ずつです。」 人々はそのとおりにしました。

✎マナについて「…白く、その味は蜜を入れたせんべいのようであった」（出エジプト 16:31）。彼らは「それを集め、ひき臼でひくか、臼でついて、これをなべで煮て、パン菓子を作っていた。その味は、おいしいクリームの味のようであった」（民数記 11:8）。

❑ポイント3　イスラエルの民はいつもマナを食べることができました（19－36）
　神さまは、日ごとに必要なマナを与えてくださいました。モーセは、「だれも、それを、朝まで残しておいてはいけません。」と言いました。残しておくと、虫がわき、臭くなりました。神さまは、毎朝みんなが食べる分を与えてくださいました。朝に集めなかった分は、昼になって暑くなると溶けてしまいました。
　また、神さまは、6日目には2倍のマナをくださいました。なぜでしょう？それは、イスラエルの民が安息日をきちんと守れるようにするためです。なんと不思議なことに、6日目だけは、次の日になってもマナは腐りませんでした。そして、7日目の朝は、荒野を探しても、マナは降ってきませんでした。安息日を守ることは、とても大切なことでした。そのために神さまは、生活のこまかいところまで、配慮を行き届かせ、不思議な力で守っていてくださったのです。
　じつはこの後、イスラエルの民はカナンに着くまで40年も荒野をさまようことになります。その間ずっと、大勢のイスラエル人が、マナを食べることができました。

✎32～33節で神さまは、マナを保存するように命じられました。これは、あかしの箱（出エジプト25：10－22）が作られた後だと考えられます。それは、イスラエルの子孫がそれを見て、荒野で守ってくださった神さまの恵みを忘れないようにするためです。

❑結論　神さまは荒野を旅する民にマナを与えてくださいました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1）神さまがしてくださったこと、与えてくださっているものにいつも感謝しよう。
　イスラエルの民は、数々のミラクルを、すっかり忘れてしまいました。本当に無事カナンに行けるのかどうか、神さまを信頼できなくなっていました。みなさんは、おもちゃを買ってもらったときだけ喜んでお父さんの言うことをきくのに、しばらくたつと感謝を忘れてわがままになってしまうことはありませんか？神さまに、いつも感謝の心を忘れないようにしましょう。
　みなさんも今までに、神さまの恵みをいっぱい体験したはずです。お祈りがきかれた経験もあるでしょう。それをいつも思い出して感謝しましょう。でも時には、不安になるときもありますね。しかしそんな時こそ、必要なものはいつも与えてくださる神さまを信頼しましょう。普段当たり前のように与えられている、水や空気について考えてみよう。すべて神さまのミラクルです。神さまは私たちに必要なものを与えて、養ってくださるお方です。感謝しよう！

2）不平不満を言う前に、神さまにお祈りしよう。心も体も満たされるよ。
　神さまは天からパンを降らせることさえできるお方です。不平不満を言った人々さえあわれんで、40年もマナを与え続けました。周りの人に文句を言うより、そんなすばらしい愛の神さまを信頼して、何でもお祈りしよう。神さまがあなたに一番良いことをしてくださいます。神さまは、私たちが神さまを頼って生きることを喜んでくださいます。
　マナは食べるパンでしたが、みことばは、命のパンです。神さまは、モノだけでなく、魂の飢え渇きを満たしてくださいます。みことばを与えて、私たちの心を元気にしてくださるのです。文句を言いたくなったとき、みことばが与えられるように、祈って求めましょう！暗唱聖句をがんばろう！